

## 症例検討セッション

### 「希少疾患のカプセル内視鏡所見」

司会 藤本 一眞 (国際医療福祉大学 内科)

加藤 智弘 (東京慈恵会医科大学大学院 消化器内科学)

小腸カプセル内視鏡は 2007 年に、大腸カプセル内視鏡は 2014 年に本邦で認可され保険収載された。以来、小腸・大腸疾患を対象に多くのカプセル内視鏡が行われ、データが蓄積され多くの知見が得られてきた。例えば原因不明の消化管出血 (OGIB)、炎症性腸疾患 (IBD) などでは貴重な経験が蓄積され、その知見は臨床の現場で広く活用されている。一方で、これまで遭遇する機会がなかった、或いは経験することが極めて限られていた希少疾患についても接する機会が増えてきていると思われる。そこで、本セッションにおいては、この希少疾患のカプセル内視鏡所見に加えて、典型例ではあるが注意すべき疾患、また広く知られた疾患であって非典型的な所見を有するもの、さらには今後の課題となる様な診断困難な症例についても提示して頂き、診断と治療を検討するセッションを予定している。カプセル内視鏡を専門とする学会ならでのセッションであり、会員の方々にとって日常臨床で参考となる様な、各施設で経験された多くの貴重な症例報告を期待している。